

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「クラ・ゼミ」札幌篠路校		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		2024年 12月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日		2024年 12月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	マンツーマンで支援を提供している為、お子さんの悩みごとや困りごとをダイレクトに聞くことが出来る	自身で考えてもらう事を大切にし、すぐに答えを出すのではなく時間を掛けて取り組めるようにしている	Instagramやブログを通して本校の魅力や特徴などを発信していく
2	指導員が担当制ではないため、急な時間変更や指導員の公休日であっても遜色なく支援を展開する事が出来る	お子さんが好きなゲームやキャラクターに例えたプリントを準備して、楽しみながら活動に参加できるようにしている	学校進捗や自宅での様子についてもしっかりと聞き取ることで、本校での活動だけでなく日常生活においても安定したパフォーマンスが発揮できるようにしたい
3	スタッフの待機スペースと保護者様の待機スペースに障壁がないため、安心感を与えやすく距離感も近くに保てるため、親近感をもってもらいやすい	フィードバックの際には本校での活動の振り返りだけでなく、日常生活においても活かせるようなアドバイスを送り、学校生活においても自信をもって取り組める様にサポートしている	保護者様の悩みごとや困りごともしっかり寄り添い、的確にアドバイス出来る様にしていきたい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	マンツーマンでの支援を行っている事で学習支援に対する要望がかなり多く、5領域に絡めた支援を提供する時間が短くなってしまっている	学習支援を要望される声も多く挙がっているが、塾との違いをしっかりと保護者様にお伝えしていく必要がある。	学習支援も大切な支援の1つであることを伝えながら、学習以外での困りごとについても丁寧に聞き取り、力になれることを一緒に考えていく
2	年齢が上がってくると、お子さんが1人で来て1人で帰る方もいるため、保護者様に直接フィードバックすることが難しく、お手紙やLineでの報告になってしまうことがある	小学校や中学校が近くにあるため、学校が終わったタイミングでそのまま来所されるお子さんが多い。比較的早い時間にお越しいただく方については、外が暗くなる前ということも考えられる	定期的にお電話やLineにて近況の確認を行い、保護者との連絡を密に取れるようにしていく
3	個別での支援を基本としているため、同年代のお子さん同士が関わる機会が少ない	保護者様からも個別支援に対するニーズが強く、小集団活動を望まない声も聞かれている	小集団活動で得られる情報があり、その情報を基に個別支援に活かせることを丁寧に説明することで、小集団活動への理解を深めていきたい

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どもサポート教室「クラ・ゼミ」札幌篠路校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数

43

回収数

31

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	23	5	0	3		限られたスペースになりますが、環境整備に努め安全に支援が行えるようにします。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	29	0	0	2		ご利用時には適切なスタッフを配置し安全面には十分考慮します。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	22	4	0	5	下の階のビルの電気が暗くて怖い。	ビルの管理者にも相談し明るく安心感のある状態でお迎えできるよう準備していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	28	1	0	2		療育に使用するものを収納するスペースが十分ではないので、整理整頓を心掛けます。
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	30	1	0	0	教えてくれる先生によって差がある。	お子さんたちの療育に関してはスタッフ間で情報共有を行っています。これまで以上に注意していきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	31	0	0	0		これからも、皆さんに安心していただけるようなプログラムを作成します。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	31	0	0	0		計画作成前には、保護者様と十分に情報共有を行い、皆さまのニーズに応えられるようにします。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	28	1	0	2		ガイドラインに沿った5領域を目標に含んでいますが、ご要望があれば柔軟に対応できるようにします。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	31	0	0	0		計画に沿って支援を展開していますが、臨機応変な対応も承っています。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	30	1	0	0		プログラムはスタッフ間で共有し、マンネリ化しないように注意しています。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	5	7	10	9	必要ないと感じる。	現状では保護者様からのご要望はありませんが、ご要望があれば対応していきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	31	0	0	0	説明が長すぎるので、文章で済ませてほしい。	丁寧に説明させていただいていますが、貴重なお時間を頂戴していますので書面での説明も検討いたします。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	31	0	0	0	説明が長すぎるので、文章で済ませてほしい。	丁寧に説明させていただいていますが、貴重なお時間を頂戴していますので書面での説明も検討いたします。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	17	5	0	9		現状ではペアレントトレーニングを実施できるスタッフが常駐していませんが、機を見て受講したいと考えています。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	28	3	0	0		フィードバック以外にも気になることがあれば、いつでもお声掛けください。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	28	1	0	2		フィードバック以外にも気になることがあれば、いつでもお声掛けください。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	27	2	0	2		保護者様からのご意見に真摯に向き合い、より質の高い支援が提供できるようにします。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされているか。	4	8	7	12		現状、そのような機会は設けていませんが、ご要望があれば検討いたします。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	27	1	0	3		サポート体制は十分に整えていますが、より皆さんにわかりやすく提示させていただきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	29	2	0	0		Lineを取り入れた事で円滑な情報共有が可能になりましたが、引き続きよろしくお願いたします。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	15	3	4	9		本校の情報を発信した際には保護者様にも周知していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	27	1	2	1	成績や体調について会話をしている時、他者にも聞こえるような時は不快に感じる。	大変申し訳ございませんでした。今後、同じことが起こらないようスタッフ間で十分に話し合います。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	27	3	0	1		全社で共通のマニュアルがありますので、保護者様への周知の仕方も工夫していきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17	4	2	8		定期的に避難訓練を実施していますが、訓練内容について周知させていただきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	24	3	0	4		安全計画を基にした訓練を実施し、安全に校舎運営が出来る様に心掛けています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	21	3	1	6		事業所内でケガをしてしまった事例はありませんが、有事の際には迅速に行動を起こせるよう準備しています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	31	0	0	0	4年生春から一人で通所させられるくらい安心感がある。	今後も丁寧な支援を心掛け、より安心していただけるようにします。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	26	5	0	0	基本的に楽しみにしているが、その日の体調によって変化する。	お子さんたちにとっても魅力的な支援を展開する事で楽しみながら活動が出来るようにします。
	29	事業所の支援に満足していますか。	27	4	0	0		皆さまからのお声に耳を傾け、より良い事業所運営が出来る様にします。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「クラ・ゼミ」札幌篠路校				公表日	2025年 2月 15日
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		お子さんたち一人一人に療育スペースがある為、落ち着いた活動を展開することが出来ています。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○		お子さん一人に対して指導員が一名配置できるようにしています。	小集団活動やイベントの際は、通常時以上にしっかり様子を観察していきます。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		教室には段差を作らないように心掛け、療育を行うスペースも扉などで仕切らずにロールカーテンを用いる事で閉鎖感をなくしています。	建物にはエレベーターもついています。近隣の入り口は階段になっている為、手すりなどがつけられるように働きかけていきます。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		毎日教室を清掃し清潔な空間を維持しています。また、支援が終了した際にはアルコールで机を清掃しています。	イベントなどを実施する際には十分に環境を整備した上で活動を展開していきます。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		本校では完全個別のマンツーマン支援となっている為、一人ずつの個室となっています。	複数のお子さんが利用している際にはプライバシーにも配慮した空間になるようにします。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		事業所内で定期的に打ち合わせを行い、全スタッフが状況を確認できるようにしています。	予め定められているルールの確認を行い、全スタッフが意識的に行動できるようにしていきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年、保護者様からご協力いただきアンケートを集計しており、その内容を基に業務改善に繋げています。	アンケートだけでなく、日頃から保護者様とのコミュニケーションを密に取っていきます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に運営会議を実施し、問題点や改善点について話し合う場面を設定しています。	入社歴が浅いスタッフが発言を躊躇しないよう注意し、全員で意思疎通が取れるようにしていきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現在、第三者による外部評価は受けておりません。	外部評価は受けていませんが、内部監査や事業所評価などを実施する事で適正な運営に努めています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		発達支援研究所と連携した研修やスタッフの経験年数に合わせた研修を実施しています。	スタッフから挙がった声を参照し、有意義な研修が出来る様にしていきます。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		複数の指導員でプログラムを検討することで結果を参照する機会を設けています。また、必要に応じて公表しています。	プログラムの内容について利用者様や保護者様からのご要望についても聞き取りを行っています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		定期的にモニタリング会議を実施し、利用者様や保護者様のご要望について聞き取りを行っています。	併用している事業所や相談室との連携を深める事でより良い計画作成に繋げていきます。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		保護者様にアセスメントを取る際に指導員も参画する事で最善を尽くした支援計画になるよう心掛けています。	併用している事業所や相談室との連携を深める事でより良い計画作成に繋げていきます。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援の準備をする際には支援計画を確認しながら進めることで計画に沿った支援が出来る様にしています。	支援計画に沿った活動を展開していますが、ご要望があれば臨機応変な対応が出来る様にします。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		全社で共通のアセスメントシートを活用し、定期的に更新しています。	広くアセスメントシートを共有し、状況に応じて改善できるようにします。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに記載されている5療育に関連した目標を正しく把握し、設定しています。内容についても具体的にわかりやすく書く事を心掛けています。	5領域に関する情報の共有は保護者様にもしっかり説明し、支援の質の向上を図ると共に理解を深めていきます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		支援準備の段階で複数のスタッフが関与し、目的意識を共有する事でプログラムを設定しています。	朝礼や終礼でプログラムについての共有を行っています。日常のコミュニケーションの中でも随時実施してきます。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	支援後には複数のスタッフで情報共有を行う事で支援がマンネリ化しないようにしています。	様々な研修に参加し、有効な支援方法を模索すると共に、技術の向上を図ります。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	基本的には個別での支援を行っていますが、状況に応じてイベントや小集団活動を展開しています	個別の要望が強くなり機会が多くない為、保護者様のご要望も伺いながら設定していきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	朝礼では必要な情報の交換を行っていますが、支援については担当する指導員同士がコミュニケーションを取っています。	メールなどのツールも活用し、直接話が出来ない際もスムーズに情報共有が出来るようにしていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	終礼で確認すべき点について共有していますが、時間がない際は翌日の朝礼で確認する様にしています。	急ぎの案件の際は管理者のみの報告として、翌日にミーティングを開いて確認する様にしています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	基本的に3営業日以内に記録を残すこととしており、情報共有に活用しています。	必要に応じて口頭で確認し、タイムリーな情報共有に努めます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	毎月、決まった期間でモニタリングを実施することで漏れなく計画を作成できるようにしています。	児発管だけでなく、全スタッフが対応することで見直しの機会を多く設けられるようにしていきます。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	ガイドラインに記載されている基本活動について確認し、活動を幾つかに分けて形成しています。	ガイドラインについて全スタッフで熟読し、正しい支援が実施出来るようにします。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	支援を展開していく上で利用者様に「やりたいこと」の聞き取りを行う事で選択する練習をしています。	利用者様からの発信が難しい際には、上手く引き出す方法について模索していきます。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	基本的には児発管が出席することが多くなっていますが、時間が合えば担当の指導員も出席する様にしています。	担当者会議に出席した後は資料をわかりやすくまとめ、全スタッフで確認できるようにします。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	地域の保健師さんや近隣の事業所、学校などと連携を図り、総合的な支援を提供できるようにしています。	保護者様からのご要望があれば他機関との連携を深めていけるよう体制を整えていきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	保護者様の要望があれば適宜、学校との連携も行っています。	密に連絡を取りたいと考えていますが、手の空く時間帯が真逆になっているので、時間の調整が必要と感じています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	保護者様からの要望があれば、適宜情報共有を行っています。	密に連絡を取りたいと考えていますが、手の空く時間帯が真逆になっているので、時間の調整が必要と感じています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	クラスに就労支援事業所があるため、卒業後に通われる利用者に関しては情報共有を行っています。	就労支援に向けた状況についての聞き取りを積極的に行っていきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	地域の保健師さんと連携をとり、情報共有や助言等をいただいています。	お会いする時間の調整が難しい場合があるので、余裕をもったスケジュールを立てていきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	保護者様からのご要望がありませんので実施していません。	保護者様からご要望があれば前向きに検討させていただきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	参画したいと考えていますが、実際に参加することは出来ていません。	次年度に向けて参画する予定を画策していきます。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	フィードバックに合わせて、支援見学等も活用しながら共通認識を持てるようにしています。	こちらから積極的にお話させていただく機会を設ける事で、共通理解を深めていきます。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	現在、ペアレントトレーニングを実施できるスタッフが常駐していません。	外部の研修も含めて研修の機会を設け、ペアレントトレーニングを実施できるように画策していきます。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時や内容を変更時に書面と一緒に確認しながら詳しく話をする機会を設けています。	分かりやすく簡略化した資料を作成し、よりご理解をいただけるようにしていきます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	個別支援計画作成の際は、利用者様や保護者様から要望を聞き取っているため、意向に沿った支援が提供できています。	こちらから積極的にお話させていただく機会を設ける事で、共通理解を深めていきます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	必ず原本を示しながら説明する様に心掛けています。	貴重なお時間を頂戴してお話させていただいておりますので、簡潔にわかりやすく説明できるようにします。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		フィードバックに加えて保護者様からの相談があれば適宜、お話を機会を設けています。	保護者様からの発信を待つだけでなく、心配な点があれば、こちらからも積極的にお声掛けさせていただきます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	保護者様からのご要望がないため実施していません。	保護者様からのご要望があれば、実施に向けて調整していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		基本的には児発管が対応させていただけるように準備しています。	苦情解決マニュアルを全スタッフで確認し、苦情があった際には適切な対応が出来るようにしていきます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ブログやInstagramを活用して、本校の活動について発信しています。	定期的に更新していますが、利用者様や保護者様への周知も積極的に行っていきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報が入った書面については鍵が付けられている棚に入れ厳重に保管しています。	口頭での個人的な相談事項については部屋を移動するなどの方法を用いています。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		場合によっては筆談や身振り手振りでのコミュニケーション方法を実施し、意思疎通を図っています。	コミュニケーションスキルの向上を目的とした研修に多く参加できるようにします。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	保護者様からのご要望がないため実施していません。	保護者様からのご要望があれば、前向きに検討していきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		全社で共通のマニュアルを使用しており、訓練も定期的を実施しています。	マニュアルの更新を定期的に行い、全スタッフが完璧に遂行できるよう準備していきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		本部で主催している研修に参加しているほか、地域に分かれて避難訓練・防災訓練を実施しています。	今年度から義務化になった項目もある為、研修や訓練の機会を有効に活用し理解を深めていきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		アセスメントツールを用いて持病等について聞き取りを行い、有事の際に備えています。	日頃から保護者様とのコミュニケーションを密に取り、変更があった場合も臨機応変な対応が出来る様にします。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	本校では食べ物の提供は行っていませんが、イベント等でお菓子を食べる際にはアレルギーの確認を行っています。	今後もイベントを実施する際にはアレルギー等について、しっかり聞き取りを行っていきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		本部で主催している研修に参加しているほか、地域に分かれて避難訓練・防災訓練を実施しています。	今年度から義務化になった項目もある為、研修や訓練の機会を有効に活用し理解を深めていきます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		避難経路やハザードマップなどを見ながら説明し、ご理解をいただいています。	更新された情報があれば、素早く皆さまにお伝えできるよう情報の確認を行っていきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	○		全スタッフで共有し、事故が起きないように十分に配慮しています。	他機関で起こってしまった事故も参照し、より安全な状態で支援を提供できるように準備をしています。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置し研修を行い、校舎毎に分かれて確認の研修も行っています。	研修の機会も設けていますが、日々の支援の中で心掛けることが出来るよう、マニュアルの整備を行っていきます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束に関わるマニュアルを作成し、状況に応じて対応が出来る様にしています。	研修の機会も設けていますが、日々の支援の中で心掛けることが出来るよう、マニュアルの整備を行っていきます。	